天下人の神格化と天皇

野村 玄 著

▼A5判・三八四頁／定価:本体 七、〇〇〇円(税別)

ISBN978-4-7842-1781-6

【二〇一五年二月刊行】

近世の政治史を考えるうえでの重要な問題の一つは、秀吉から家康に至るまでの間、彼らによる天皇の位置づけが変化していく中、今度はその天下人自身までもが神格化を遂げていたことであった。

豊臣秀吉や徳川家康の神格化が、なぜ近世前期の政治過程において要請され、それらはどのように実現したのかを解明し、そこでの天皇・朝廷の行動と意味を再検討するとともに、その後の徳川将軍家が天下人の神格や天皇・朝廷といかに向き合ったのかを、綱吉期までを視野に入れ叙述する。

○内容目次○

序論
幕藩制国家論のその後と日本中近世国家論／「徳川国家」論の限界／権門体制論と近世の天皇・朝廷／「政治史」の発展的継承と本書の課題／王権論に対する本書の立場

第一部 豊臣秀吉・徳川家康の神格化と天皇

第一章 慶長期初頭の政治情勢と豊国大明神
豊臣秀吉の遺言変更をめぐって／豊国大明神号の創出と後陽成天皇・豊臣家・徳川家康／徳川家康の源氏改姓と豊国大明神

第二章 東照大権現号の創出と徳川秀忠
徳川家康の久能山埋葬前後の状況／久能山における神龍院梵舜の作法の歴史的位置／天海の意見具申の内容と徳川秀忠による権現号奏請／吉田家による対抗運動とその論理および限界／徳川秀忠の国家構想と東照大権現号

第三章 徳川家光の国家構想と日光東照宮
近世前期の神国思想をめぐって／日光東照社大造替および『東照社縁起』真名本上巻作成と徳川家光／『東照社縁起』追加作成と将軍権力／東照社への宮号宣下と日光例幣使発遣奏請・決定の政治的背景／徳川家康・秀忠の叙位任官文書再作成と東照宮号宣下との関連性／東照宮号宣下の発案時期／国家鎮護と徳川家光

第二部 身分集団としての禁中・公家中と江戸幕府

第一章 近世の堂上公家と身分制
公家身分論をめぐる諸問題／後陽成天皇・大御所徳川家康と公家の「外聞」―猪熊事件をめぐって／秀忠・家光政権による公家の放埒行為への対処方針とその特質／武家伝奏中院通茂の禁中・堂上公家論と家綱政権

第二章 領主としての公家と家綱政権
延宝二年の山城国大洪水と同国紀伊郡石原村の公家領主／延宝二年の公家領水損をめぐる幕府上方支配機構の対応

第三部 徳川将軍家の国家構想の継承と限界

第一章 天和・貞享期の綱吉政権と皇位
天和期の皇位継承者選定過程と綱吉政権／天和・貞享期の関白・京都所司代人事と徳川綱吉／貞享期における霊元天皇譲位・大嘗会再興と綱吉政権

第二章 元禄・宝永期の徳川綱吉と「かけまくもかしこき日のもとの国」
綱吉政権期における諸儀式・諸寺社等再興の特徴／徳川綱吉・桂昌院による伊勢神宮・内侍所での祈禱とその目的／徳川綱吉と東照大権現・日光東照宮／元禄・宝永期における東山天皇の譲位問題と徳川綱吉

結論

補論
書評 田中暁龍著『近世前期朝幕関係の研究』
書評と紹介 藤田覚著『近世天皇論 近世天皇研究の意義と課題』

あとがき／索引

のむら・げん…一九七六年大阪府生。二〇〇四年大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了、現在、防衛大学校人文社会科学群人間文化学科准教授
〔著書〕『日本近世国家の確立と天皇』(清文堂、二〇〇六年)『徳川家光―我等は固よりの将軍に候―』(ミネルヴァ書房、二〇一三年)

思文閣出版
〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票	発行:思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	天下人の神格化と天皇	本体7,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1781-6
お名前		tel / e-mail		
ご住所	〒			
送本方法	□書店経由(このちらしを書店にお渡し下さい) □代 引(書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)		本書HPのQRコード	書店番線印

近世の禁裏と都市空間
岸泰子著

禁裏が関係する信仰や儀礼の場・空間の特性に注目し、都市を基盤として存在した禁裏、禁裏によって形成・維持された都市、という両側面からなる近世京都の特性を中世・近代への展開も視野に入れて明らかにする。都市・建築史的観点から近世の天皇・王権のありかたにも注目し、天皇が表出する場の特性や天皇と民衆の関係性などにも言及。

▶A5判・320頁／本体6,400円(税別)　ISBN978-4-7842-1740-3

訓讀註釋 儀式 踐祚大嘗祭儀
皇學館大学神道研究所編

天皇一代一度の国家祭祀・大嘗祭の祭祀・儀式の全貌を示す、最も古い確かな文献である『儀式』(貞観儀式)。本書は、皇學館大学神道研究所が長年に亙り取り組んできた、現存本『儀式』巻二・三・四「踐祚大嘗祭儀　上・中・下」の訓読・注釈研究の成果。

▶B5判・890頁／本体15,000円(税別)　ISBN978-4-7842-1619-2

※織豊期主要人物居所集成
藤井讓治編

織豊期を生きた政治的主要人物の移りゆく居所の情報を編年でまとめた研究者・歴史愛好家必携の書。**【収録人物】**織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、足利義昭、明智光秀、細川藤孝、前田利家、毛利輝元、伊達政宗、上杉景勝、石田三成、福島正則、近衛信尹、西笑承兌、北政所、浅井茶々など25名

▶B5判・476頁／本体6,800円(税別)　ISBN978-4-7842-1579-9

※幕藩権力と寺院門跡
杣田善雄著　　思文閣史学叢書

宗派・教団単位に考察されてきた従来の研究に対し、中世寺社勢力の中心であった顕密系寺院の近世的あり方を分析することによって、江戸幕府の寺院行政の展開をより明瞭に解明。さらに、旧寺社権門の頂点に位置した門跡を分析対象とし、近世における門跡制の特質を明らかにする。

▶A5判・320頁／本体7,200円(税別)　ISBN4-7842-1166-7

幕藩制国家の成立と対外関係
加藤榮一著　　思文閣史学叢書

幕藩権力がどのような国際的環境のもとに国家支配の枠組を形成したのかを、「公儀」幕藩権力と連合オランダ東インド会社との関係史を基軸に、国際秩序の変動や東アジアおよびヨーロッパ社会の変革の過程の中に捉えなおした意欲作。

▶A5判・468頁／本体8,800円(税別)　ISBN4-7842-0954-9

近世史小論集 古文書と共に
藤井讓治著

日本近世政治史研究の泰斗である著者が、研究をはじめたころからごく近年にいたる間に書いた小論のうち、あまり目にとまらないところに収められたもの、入手の困難なものの中で著者の主要な研究の前提、あるいはその後の展開にかかわる論考を集めた。

▶A5判・490頁／本体6,000円(税別)　ISBN978-4-7842-1621-5

象徴天皇制の形成と定着
冨永望著

「象徴天皇（制）」という言葉に着目して、この用語の使用法を検証し、さらに吉田茂の憲法運用と、それに異を唱える政治勢力や憲法学者の天皇観を明らかにすることで、象徴天皇制は新憲法の運用の積み重ねによって形成されたことを実証する、気鋭の書。

▶A5判・316頁／本体4,800円(税別)　ISBN978-4-7842-1492-1

※上賀茂のもり・やしろ・まつり
大山喬平監修／石川登志雄・宇野日出生・地主智彦編

古文書・古記録をはじめ建築や神饌などの姿・形のなかに古い神社と失われた日本文化が受けつがれている上賀茂神社。平成18年３月に神社所蔵の約14000点の文書が重要文化財に指定されたことを記念して、同社主催の歴史文化講座の成果をまとめ、上賀茂神社をめぐる神事・歴史・文化をわかりやすく紹介。

▶A5判・412頁／本体2,800円(税別)　ISBN4-7842-1300-7

※王権と神祇
今谷明編

実証的研究の蓄積が少ない天皇制や大嘗祭、また権門体制論・顕密体制論によって規制されがちな中世神祇史について、実態面の研究を積み重ね、さらに中世日本紀や神道書の考証も重ね合わせることにより、王権と宗教に関する新たな見取り図を描き出すことを目指した意欲的な論集。

▶A5判・348頁／本体6,500円(税別)　ISBN4-7842-1110-1

※日本近世の宗教と社会
菅野洋介著

奥州と関東を主に、戦国期以降の仏教・神道・修験道・陰陽道等と地域社会とのかかわりを、東照宮や寛永寺を中心とした幕府権威をも視野にいれて考察。本所権威の在地社会への浸透、在地社会における諸宗教の共存と対抗、民衆宗教の展開とそれを規定する社会情勢、そして在地寺院など宗教施設の「場」としてのあり方を追求する。

▶A5判・380頁／本体7,800円(税別)　ISBN978-4-7842-1572-0

※関ヶ原合戦と近世の国制
笠谷和比古著

徳川時代270年のまさに端緒となった関ケ原合戦が内包していた諸問題の再検証と、合戦後の領地配分（地政学的状況）にみられる支配の実態、将軍制をめぐる思惑と確執、家康と秀頼の関係などを通して豊臣と徳川の「二重公儀体制」の実態を明かし、徳川家康の政権構想と近世天皇制との関係を論じる著者最新の論集。

▶A5判・280頁／本体5,800円(税別)　ISBN4-7842-1067-9

徳川将軍家領知宛行制の研究
藤井讓治著　　思文閣史学叢書

近世社会、特に領主社会での徳川将軍家と大名との関係を成立させる領知制。本書はその領知制を基礎のところで成立させている領知朱印状そのものに注目し、徳川将軍家の領知宛行制の形成過程とその特質を明らかにする。各章末に領知朱印状の一覧を付す。

▶A5判・412頁／本体7,500円(税別)　ISBN978-4-7842-1431-0

一八世紀日本の文化状況と国際環境
笠谷和比古編

日本の18世紀社会は、経済活動の飛躍的な発展、公共性理念の進化のもと、儒学・博物学・蘭学・文学・芸術など、さまざまな局面において独自性にみちた文化的発展をみせ、近代化に多大な影響を与えた。その形成過程や西洋などの影響からなる展開を論じた共同研究23篇。

▶A5判・582頁／本体8,500円(税別)　ISBN978-4-7842-1580-5

幕末期の老中と情報 水野忠精による風聞探索活動を中心に
佐藤隆一著

水野忠精を題材とした老中の情報収集を軸に、幕末期の老中による政治情報収集の実態とその情報内容、さらにはこれらの扱われ方を実証的に分析することで、基本的な老中の情報収集ルートの枠組を明らかにする。

▶A5判・520頁／本体9,500円(税別)　ISBN978-4-7842-1702-1

明治期における不敬事件の研究
小股憲明著

明治政府の誕生以来、数多く発生しながら体系的な研究がされてこなかった不敬事件を明治期について網羅。豊富な実例を整理・検討することによって明治国家の特質を考察し、天皇制と教育の関係、ひいては天皇制と近代日本および国民の関係を明らかにしようとする大著。資料編として、228事例と13参考事例の概要および参考文献を収載。

▶B5判・576頁／本体13,000円(税別)　ISBN978-4-7842-1501-0

天皇・将軍・地下楽人の室町音楽史
三島暁子著

南北朝・室町時代を通じて天皇・将軍が学び権威のシンボルとなった「笙」。本書では、天皇家・将軍家の笙の御師範として重要な役割を果たした地下楽人豊原氏の南北朝期から約150年にわたる活動に着目し、公・武・楽家という３者の関わりのなかから、権威に密接にかかわった音の文化を論じる。

▶A5判・360頁／本体6,600円(税別)　ISBN978-4-7842-1609-3

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年４回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。